

**決算説明資料
(2019年度)**

2020年 6月 5日



2019年度 決算概要

2019年度の総括

●当事業年度におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移してはいましたが、年明けからの新型コロナウイルス感染症の拡大による経済への深刻な影響が出ており、先行きについては厳しい状況が続くと見込まれております。

●このような事業環境の中、主要顧客である製造業からの受注が期初から堅調に推移したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大から、防じんマスクや保護衣等の受注が第4四半期に大きく増加いたしました。その結果、売上高は前年度比7.9%増の115億97百万円となりました。

●利益面につきましては、売上増加の影響に加え、生産効率の向上により製品原価率が2.1ポイント改善したため、売上総利益は前年度比11.1%増の34億70百万円となりました。

●販売費及び一般管理費につきましては、売上増加に伴う人件費、諸経費の増加があったため、前年度比で4.4%増の31億63百万円となりました。

●以上の結果、営業利益3億7百万円（前年度比2億15百万円増）、経常利益3億20百万円（前年度比2億29百万円増）、特別利益として福島県の産業復興企業立地補助金37百万円があったことから、当期純利益は2億66百万円（前年度比2億19百万円増）となりました。

●当社では、新型コロナウイルスの感染拡大に対しまして、従業員の健康・安全確保のため、マスク着用や出勤前の検温、国内外の出張禁止、テレビ会議活用等を実施しております。また、在宅勤務や時差出勤の推進で、感染リスクを最小限に抑え、労働安全衛生保護具の専門会社としての社会的責任を果たすため、生産活動等の事業継続に努めております。

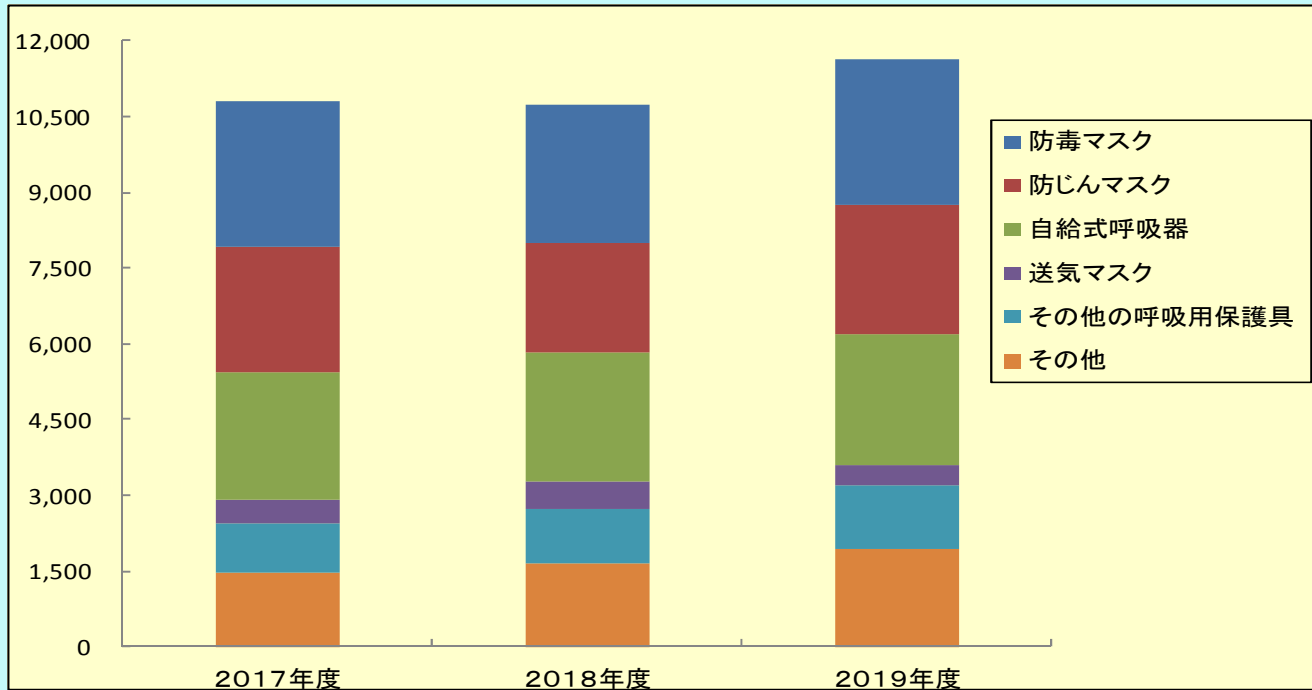
2019年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2017年度	2018年度	2019年度		
			実績	前々期比 増減	前期比 増減
売上高	10,794.8	10,747.8	11,597.0	802.2	849.3
製品製造原価	5,025.0	4,927.7	5,142.0	117.0	214.3
商品原価	2,630.4	2,697.3	2,984.7	354.2	287.4
売上原価	7,655.5	7,625.0	8,126.7	471.3	501.7
売上総利益	3,139.3	3,122.7	3,470.3	331.0	347.6
販売費及び一般管理費	3,047.7	3,030.3	3,162.9	115.2	132.6
営業利益	91.6	92.5	307.4	215.8	214.9
営業外収益	62.8	62.5	66.5	3.7	4.0
営業外費用	49.2	64.1	53.9	4.6	△ 10.2
経常利益	105.2	90.9	320.1	214.9	229.2
特別利益	0.0	0.0	36.7	36.7	36.7
特別損失	0.4	11.0	10.2	9.8	△ 0.8
税引前当期純利益	104.8	79.9	346.6	241.8	266.7
法人税等	3.5	12.0	95.5	92.1	83.5
法人税等調整額	△ 2.1	21.1	△ 14.9	△ 12.8	△ 36.0
当期純利益	103.4	46.8	265.9	162.5	219.1

セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

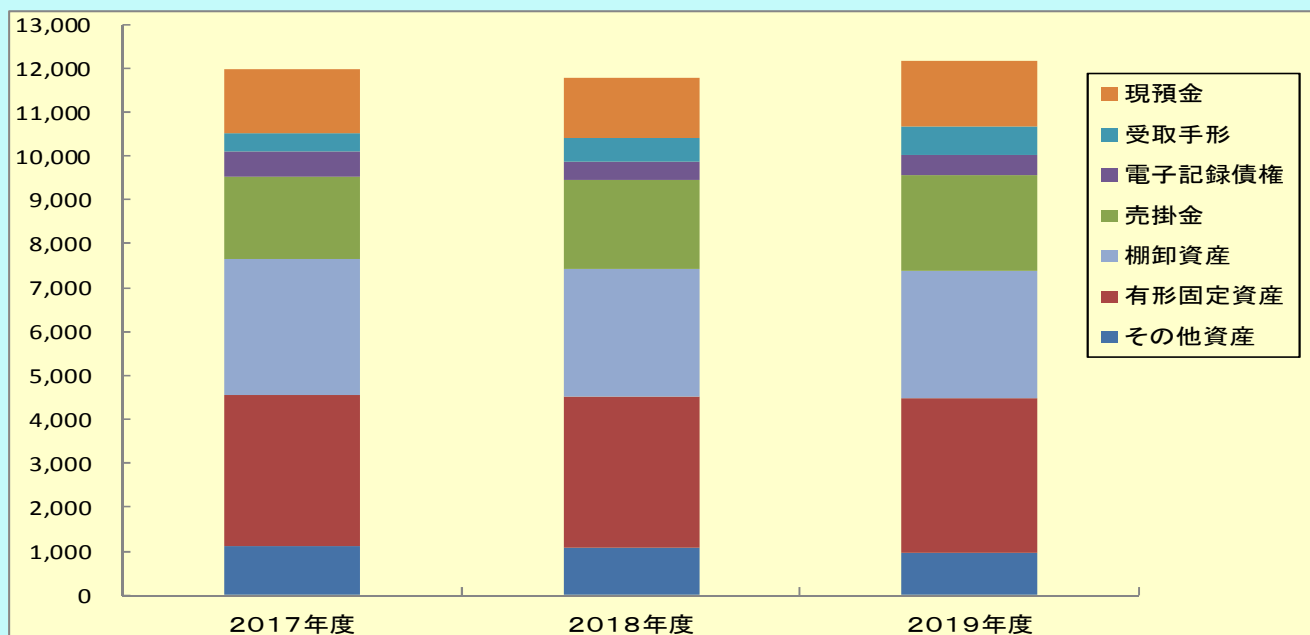
	2017年度	2018年度	2019年度
防毒マスク	2,887.3	2,742.8	2,833.0
防じんマスク	2,476.1	2,186.4	2,577.3
自給式呼吸器	2,503.7	2,549.1	2,575.1
送気マスク	468.1	550.3	424.8
その他の呼吸用保護具	982.5	1,083.1	1,255.7
その他	1,477.1	1,636.0	1,931.2
合計	10,794.8	10,747.8	11,597.0

当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、全体として緩やかな回復基調で推移してきたものの、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大の影響から、景気の先行きは見通しにくい状況になってきております。
- ② このような環境の中、製造業からの堅調な受注に加え、第4四半期には、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、防じんマスクや保護衣の受注が急増したため、売上高は、前年度比8億49百万円の増加となりました。
- ③ 主要品目別では、前年度比で防毒マスクが90百万円、防じんマスクが3億91百万円、自給式呼吸器が26百万円の増加となりました。その他の呼吸用保護具は電動ファン付き呼吸用保護具を中心に1億73百万円の増加となりました。一方、送気マスクは1億26百万円の減少となりました。
- ④ また、その他項目では保護衣等を中心に、前年度比2億95百万円の増加となりました。

主要資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	2017年度	2018年度	2019年度
現預金	1,435.0	1,353.5	1,495.9
受取手形	450.4	555.7	643.1
電子記録債権	539.7	429.6	463.9
売掛金	1,886.0	1,992.1	2,152.9
棚卸資産	3,090.1	2,922.4	2,909.4
有形固定資産	3,446.0	3,455.7	3,519.7
その他資産	1,119.3	1,063.5	971.6
合計	11,966.6	11,772.5	12,156.6

注：○本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

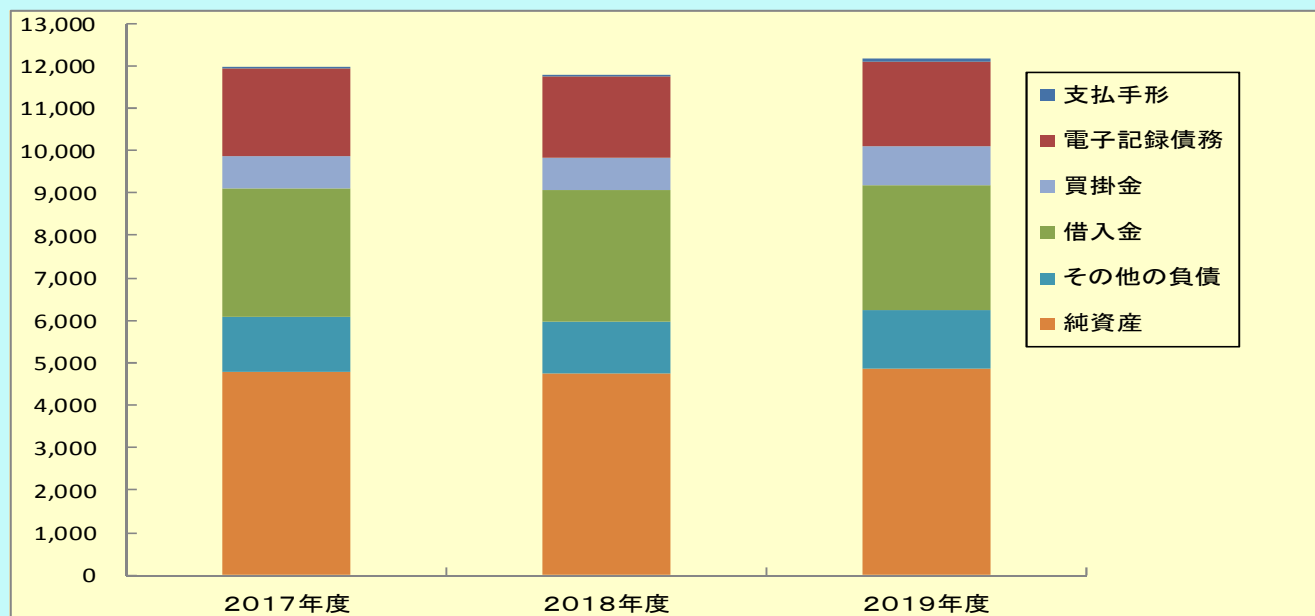
○2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当年度の特徴

- ① 現預金の残高は、前年度末比で1億42百万円増加しましたが、これは通常の変動の範囲内にあるものです。
- ② 売上高増加に伴い、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）残高は、2億83百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、前年度末比13百万円の減少でほぼ前年並みとなりました。
- ④ 有形固定資産は、生産能力増強のための設備投資及び新製品を中心とした金型投資により、全体では64百万円増加となりました。
- ⑤ その他資産は、投資有価証券が99百万円減少したことが主因で、全体では92百万円の減少となりました。

主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

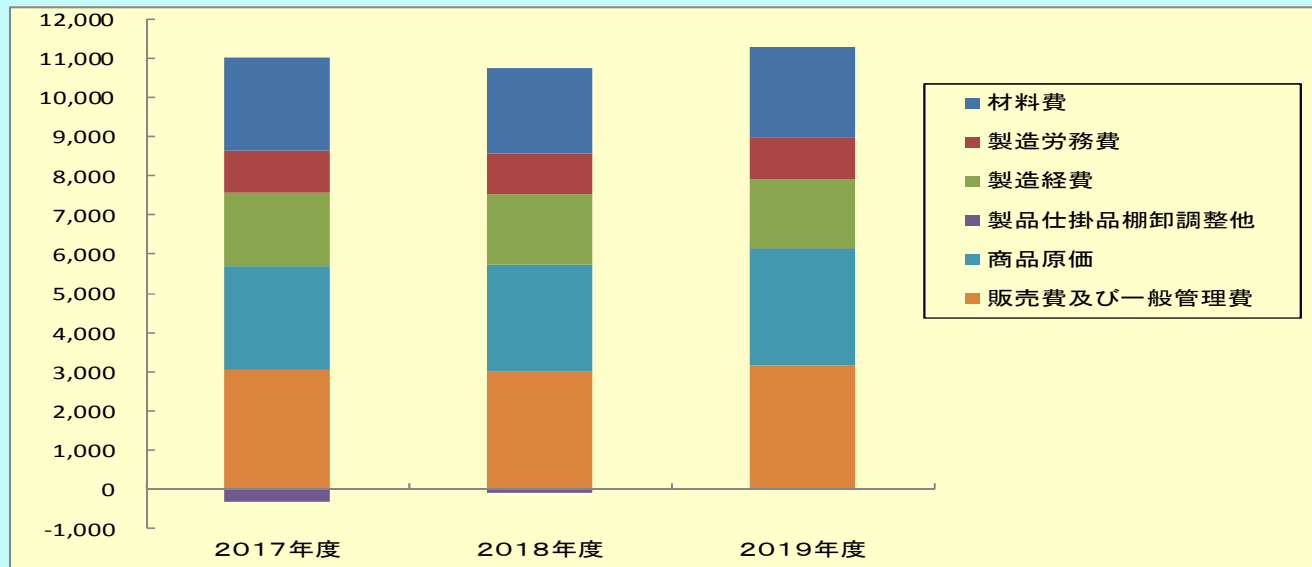
	2017年度	2018年度	2019年度
支払手形	43.4	35.4	53.9
電子記録債務	2,067.6	1,908.8	1,987.4
買掛金	743.9	756.2	943.8
借入金	3,010.0	3,090.0	2,940.0
その他の負債	1,317.1	1,246.5	1,369.5
純資産	4,784.6	4,735.6	4,861.9
合計	11,966.6	11,772.5	12,156.6

当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）残高は、仕入高の増加に伴い前年度末比では2億85百万円増加しました。
- ② 借入金の残高は、前年度末比で1億50百万円減少しましたが、これは通常の範囲内です。
- ③ その他の負債は、未払費用、未払法人税等が増加した結果、全体では前年度末比で1億23百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、有価証券評価に伴う減少等があったものの、当期利益の増加により、前年度末比で1億26百万円増の48億62百万円となりました。自己資本比率は40.0%と、ほぼ前期並みの水準となりました。

売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

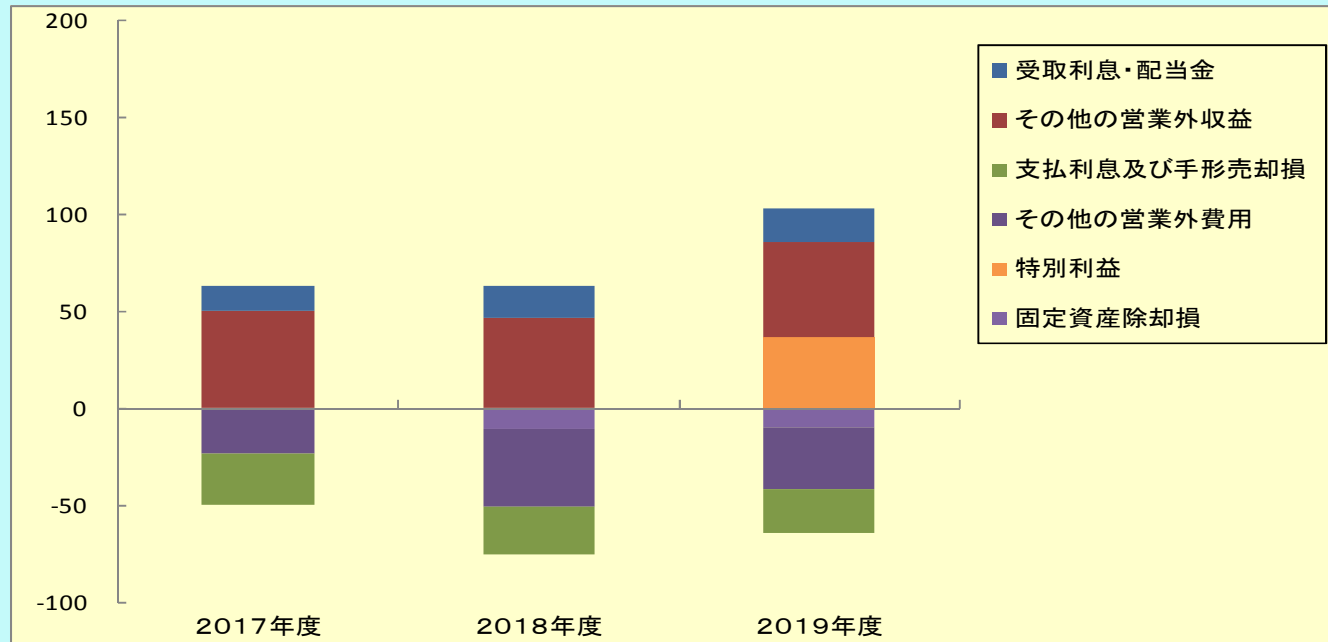
	2017年度	2018年度	2019年度
材料費	2,368.6	2,201.7	2,294.2
製造労務費	1,058.2	1,010.7	1,101.5
製造経費	1,906.4	1,806.6	1,731.9
製品仕掛品棚卸調整他	△308.1	△91.3	14.4
商品原価	2,630.4	2,697.3	2,984.7
販売費及び一般管理費	3,047.7	3,030.3	3,162.9
合計	10,703.1	10,655.3	11,289.6

当年度の特徴

- ① 製造部門は、製品売上高の増加の影響もあり、製品原価率は、前年度比2.1ポイント改善いたしました。
 - ・材料費は、製品売上高の増加に伴い前年度比で92百万円の増加となりました。
 - ・期初から製品供給力の増強に努めるとともに、要員の効率的配置に注力した結果、製造労務費は91百万円の増加に留まりました。
 - ・製造経費は、減価償却費、修繕費の減少を中心に、前年度比では75百万円の減少となりました。
- ② 商品原価が、前年度比で2億87百万円増加し、商品原価率は前年度比1.3ポイント上昇いたしましたが、ほぼ前々年度並みの水準に戻りました。
- ③ 販売費及び一般管理費は、売上増に伴う人件費、経費が増加したため、前年度比では1億33百万円の増加となりました。

営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当年度の特徴

- ① 前年度比では、受取利息・受取配当金が2百万円、その他の営業外収益は、受取ロイヤリティの増加等から、2百万円の増加となりました。
- ② 引き続き、借入金の金利水準は低位安定の状態が続いていること等もあり、支払利息及び手形売却損は、前年度比2百万円の減少となりました。
- ③ 特別利益として福島県からの補助金収入37百万円を計上しております。
- ④ 特別損失として、固定資産除却損10百万円を計上いたしました。

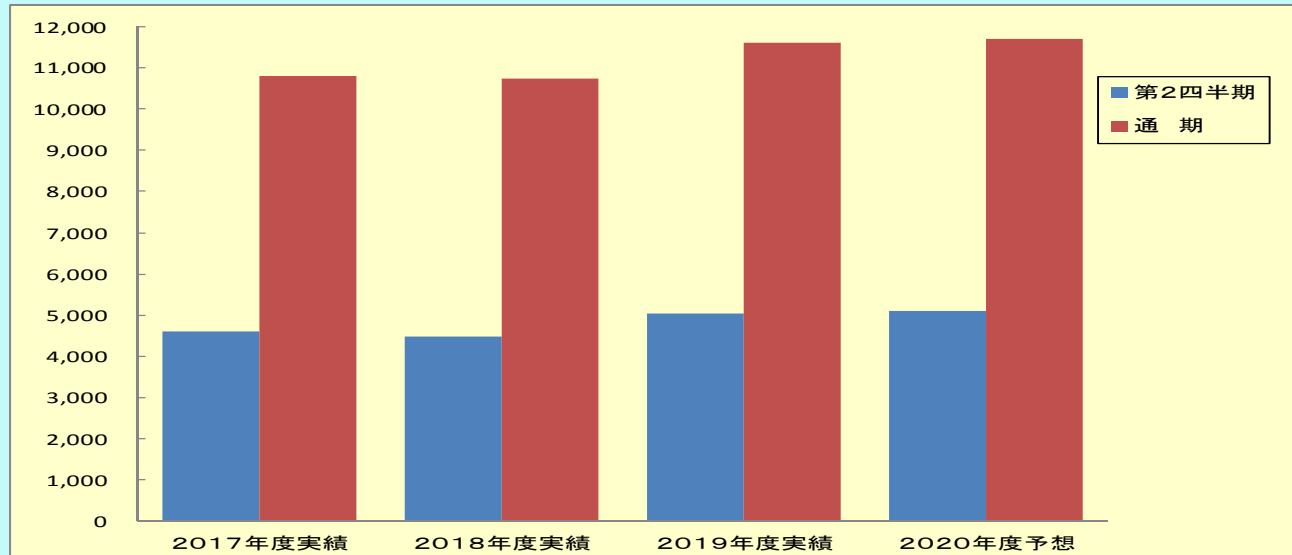
(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

		2017年度	2018年度	2019年度
営業外損益	受取利息・配当金	12.8	15.9	17.7
	その他の営業外収益	50.0	46.6	48.8
	支払利息及び手形売却損	△ 26.4	△ 24.7	△ 22.5
	その他の営業外費用	△ 22.9	△ 39.4	△ 31.4
	営業外損益合計	13.5	△ 1.6	12.6
特別損益	特別利益	0.0	0.0	36.7
	固定資産除却損	△ 0.4	△ 11.0	△ 10.2
	特別損益合計	△ 0.4	△ 11.0	26.5

2020年度 業績予想

2020年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度予想
第2四半期	4,591	4,491	5,037	5,100
通期	10,795	10,748	11,597	11,700

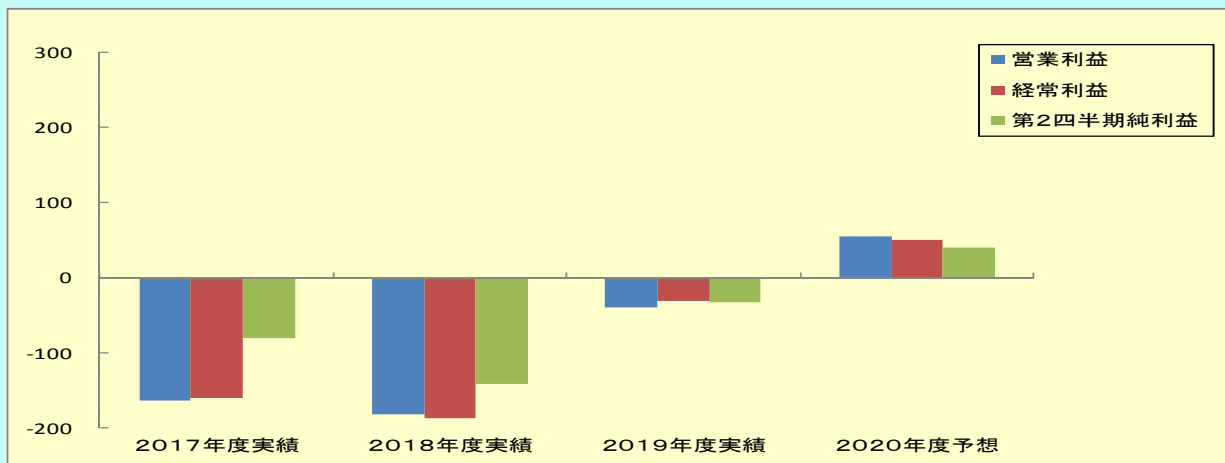
予想のポイント

新型コロナウイルス感染症の影響が世界的に拡大する中で、わが国も感染拡大防止策による経済活動の停滞により、様々な景気下押しリスクが顕在化してきております。

このような環境の中、呼吸用保護具は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、マスクや保護衣等を中心に、今後も一定以上の受注が継続していくと見込まれる一方、景気減速の影響により、主要顧客である製造業からの受注減が懸念される状況も想定されます。

このような諸状況を総合的に勘案し、2020年度の通期売上高は、前年度比1億円増加の117億円を見込んでおります。

2020年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)



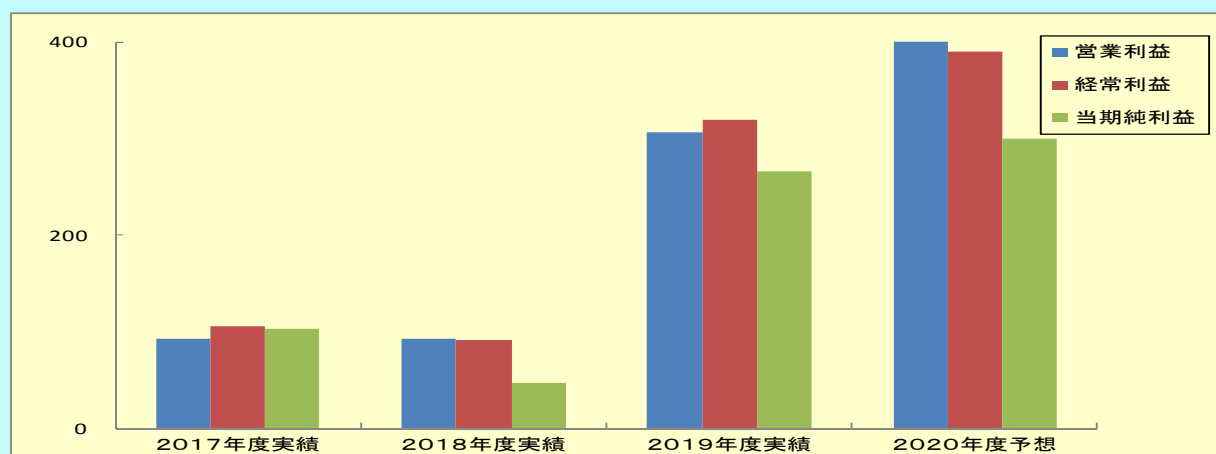
予想のポイント

2020年度第2四半期は、前第2四半期をやや上回る売上高を見込み、利益面は、人件費、経費の見直しを進めることで、営業利益、経常利益、第2四半期純利益とも前年度マイナスから、黒字への改善を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度予想
営業利益	△164	△181	△40	55
経常利益	△160	△187	△31	50
第2四半期純利益	△81	△142	△33	40

2020年度 通期の利益予想 (単位：百万円)



2020年度通期は、生産能力の増強を進めながら、全体として人件費、諸経費の見直しを図ることで、前年度以上の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度予想
営業利益	92	92	307	400
経常利益	105	91	320	390
当期純利益	103	47	266	300